

## 加工・業務用野菜取組事例⑮

調査日(更新日)	平成28年2月25日(平成一年一月一日)
----------	----------------------

1. 事業者基本情報	
事業者名	クラカグループ 青果事業部 倉敷青果荷受組合
代表者名	理事長 富本 尚作
所在地	岡山県倉敷市西中新田525-21
連絡先	TEL:086-425-2100 FAX:086-425-2600
ホームページ	<a href="http://www.kuraka-g.com/">http://www.kuraka-g.com/</a>
連絡先担当者	倉敷青果荷受組合 カット野菜部 次長 寺田 幸司

2. 経営の概要	
経営形態	青果荷受組合
事業概要・取扱商品	青果物の卸売、洗浄殺菌カット野菜の製造・販売
販売額	116億円(うちカット野菜部37.5億円 平成27年実績)
労働力・構成員	340名(うちカット野菜部 290名)
生産・加工施設	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物処理加工施設</li> <li>・たまねぎ自動皮剥き機</li> <li>・農産物集出荷貯蔵施設</li> <li>・集出荷用、一次加工用コンテナ洗浄機ライン</li> <li>・洗浄室施設</li> </ul> <p>総面積2,770㎡</p>
経営の推移と取組のきっかけ	平成10年に惣菜や弁当といった中食や外食などの業務向けの需要に対応してカット野菜事業に参入。近年の生活スタイルが変化(単身世帯の増加・女性の社会進出・少子高齢化等)していくことにより食の外部化が進んでいる。加工・業務用野菜の増加等、需要の変化にいち早く対応するため、27年までに9回、工場を増設し、加工・業務用需要への対応を積極的に行ってきた。

### 3. 加工・業務用野菜の取組概要

原料入荷関係 (時期・産地・量)	生産者との取引開始時に加工・業務用に適した規格を提示し、量や単価を定め全量買い取り契約取引を行っている。取扱いの多い品目としてキャベツ・たまねぎを中心として契約取引を拡大していく方向。
主な出荷先	加工・業務用ユーザー、外食中食チェーン、スーパー、コンビニ、ドラッグストア等(全国200社4800店舗)
販売額	37億5千万円【カット野菜部売上(加工・業務用対応部門)】
出荷先からのニーズ	○安全・安心 ○定時、定量、定品質、定価格の4定 ○トレーサビリティの確立 ○輸出品と価格差の縮小
その他特徴的な事項等	生産地からご家庭の食卓に届くまで、新鮮さを保持するために「コールドチェーン」と呼ばれる徹底した低温管理を実施している。また、安全性への配慮として商品の流通経路の特定が可能となるよう「トレーサビリティ」にも取り組んでいる。青果卸売業界では日本初となる、食品安全に特化した国際規格管理手法【ISO22000(食品安全マネジメントシステム)】を平成21年4月認証取得、安全安心において信頼のおける先進的な取組を実施している。
取組の成果	契約取引に関しては、約40の産地・生産法人とカット野菜部全体の約7割を契約取引にて仕入れている。ISO22000の取組は年々進化して仕組みの構築・マニュアルの整備を行っている。コールドチェーンの取組は、温度管理における野菜の安全安心を担保し、鮮度・おいしさを提供することにより、出荷先から信頼をいただいている。
今後の展開	国産の加工・業務用野菜を増やすため、生産者と連携組織を設立し、全量を固定価格で買い取る契約を結び、地元食材を安定かつ安価にて調達し、販売先のスーパーやコンビニからの需要増に向けた取組も行っている。中間事業者としてカット野菜(一次加工品・二次加工品・消費者向け最終製品)・ホール野菜・原料野菜の供給、集出荷貯蔵庫を活用し需給調整機能を有して、物流配送まで行う青果物供給における拠点を目指し尽力している。
生産者や産地に対する要望等	産地リレー出荷等による国産野菜への周年安定供給。規格・数量・品質・価格の遵守。契約取引への理解。販売先を決めた播種前契約の実施。実需者・中間事業者との勉強会の実施に取り組んでいく。
事業者からひと言	常に新規のお客様を開拓しており、原料野菜や丸野菜だけでなく一次加工・二次加工・最終消費者向け製品と付加価値をつけての供給と中間需給調整機能を有しており、生産者の方々には生産に集中していただける環境・供給連鎖(サプライチェーン)を構築しております。是非大切なパートナーとしてともに歩んでいただける生産者の方々ともに、加工・業務用野菜の生産振興と利用拡大を図りたいと考えております。

